

ひだまり通信 No. 12

2010. 2月



はじめまして、私の妹、犬の菜々です。
「菜々、何して遊ぶの？」 さつき 10才

立春を過ぎて、少しずつ昼間の時間が長くなり、日差しも明るく暖かくなってきています。

この大雪も地球の温暖化が進んで、水温が上昇して蒸発する海水に寒気が加わり、雪に変わっているといえます。確かに積もった雪は、その後の10℃を超える気温と雨がとんとん溶かしていき、また大雪が降る、その繰り返しです。

村中を抜けると、田んぼが一面に広がっています。田んぼの中の道は、風をさえぎるものが無く、強風の日には、地吹雪になります。一寸先も見えない中、歩いて通学する小学生はたいへんです。低学年を囲むように一丸となり、時には高学年が1年生をおぶって吹雪の橋を渡ることもあります。

雪で、車が立往生すると、必ず見つけた人が助けに行きます。雪は冷たいけれど、人の心は暖かいと嬉しくなります。あと1カ月で、活気にあふれる春がやってきます。



3月に入りました。種もみの殺菌消毒は、60℃の温水です。



4月、32℃のお湯につかり、芽吹いた種をまきます。



家の周りは、春らんまんです。



ハウス作業がスタート。育苗期間は度重なる強風に悩まされました。



神社から、怖い顔をした神の使者が降りてきました。続いて若いかつぎ手により、みこしが出され、けんか祭りが始まります。



田んぼの高い土手の草刈りは、腰の痛い仕事です。

稲の苗が出荷されます。



水田の水鏡が、夕焼けを写しています。

5月、田植えが始まりました。子供達も苗箱洗いのお手伝い。春は、大勢の人の手が、必要です。



受粉後3日目頃からメロンの実は、ふくらみ始めます。初めはツルツルの鶏卵のようです。

朝、若いメロンの樹は、葉のまわりに水の玉をつけて、キラキラしています。

実は、どんどん大きくなろうとします。硬くなってきた皮は、堪えきれずに、ビリビリとひびを作りながら、実をふくらませていきます。そのひびを治そうと、メロンは自分でかさぶたを作ります。日数が経つと、かさぶたはコルク化して、マスクメロンのきれいな網目が、できあがります。



力強く土をもちあげ、メロンの芽が出ました。





7月の終わりには、稲は体の中で、稲穂を作り始めます。



とっくり蜂の巣です。素晴らしい芸術作品です。



うっすら色付いてきた稲穂です。あともう少し……



可憐なそばの花



神社のこま犬。田んぼが見おろせる所にじっと座り、稲刈りが終わるまで、ずっと見守ってくれています。



鶏小屋の屋根の上で、収穫した大きな夕顔（かんぴょう）です。



楽しい夏休み。スイカおいそうだね。「お姉ちゃん、私にもちょうだいワン!」



実りの秋になりました。



米の検査です。全ての袋から、少しずつ米を抜き取り、厳しく検査されます。



日照不足、低温、長雨。「未熟な粒が残りましたね。」天候相手の農業の一番難しいところです。



犬の散歩で見つけた「カワラナデシコ」寒さで枯れた草の中に、二輪寄添って、一際あざやかに咲いていました。



樹齢80年。庭のつばきです。

9月の終わりに、東京の表参道新潟館ネスパスで開催された糸魚川市の物産展に、稲刈り中の主人を残して、長女と2人で参加しました。とても楽しい2日間でした。



おばあちゃんも除雪作業。



秋の堆肥散布。晴れ間を見ての作業です。



暖かい部屋で、おばあちゃんのお手伝い。



「菜々、今日も遊ぶぞーっ!!」